

四一〇〇坪の広大な敷地と好条件の工業団地

高橋新庄市長も駆けつけ、たゆまぬ発展に祝意を表明

クレーン付き原木運搬車や後進自在のフルトレーラで知られる新庄自動車(佐藤啓社長、山形県新庄市)は、このほど広大な新工場を買収して移転したが、九月十八日には「新工場見学と祝賀会」を開催した。

同社は自動車、鉄道機械などの修理を手掛けるため昭和二十九年に設立、現在はV・K R A N (ブイ・クレーン) 社製ローダークレーンの販売、架装および原木運搬ボデーの製作、平成五年にスウェーデン鋼を使用した原木運搬車の試作に着手、平成六年から製作販売を開始して

いる。このクレーンは非常に丈夫で軽量に出来ているため積載効率に優れ、ユーザーから好評を博している。

また、操作が非常に難しいとされるフルトレーラのバック走行を容易にする画期的装置「H I R A K U 式フルトレーラ装置」も大きな話題となっている。この装置はドリーに油圧操舵機構とロック機構を装着、運転席からリモコンで操作することによって、バック走行を容易に行えるもの。しかも、油圧シンリンダーがショックアブソーバーとして機能するため、高速安定走行に優れ、ジャックナイフ現象なども抑制する効果がある。

同社は本誌主催のトラックショーに毎回出展して佐藤社長自身が実演しているが、独自のアイデアで話題となっている。社業も好調に推移して、今春には創立五〇周年の祝賀会を開催したばかりであるが、工場が手狭になった事から新工場への移転を計画していた。幸運にも工業団地で電車用品を製造していた工場が中古物件として出たことから買収が実現し、今回の移転となった。

新工場は従来工場から車で一〇分ほどの新庄中核工業団地内にあり、敷地は約四一〇〇坪と広大で、その中に六〇〇坪の工場と三〇〇坪(二階建て)の事務棟がある。工場建屋も天井が高く特装車の製作には好条件となっている。また、同社敷地の両側にはトラック販売会社の営業所と宅配業者が隣接しており、日常業務でも好条件となっている。

今回の新工場見学には、取引先の販売会社やユーザーなど多数が参加したが、従来工場に比べてあまりにも広大な敷地と施設に驚嘆の声を上げていた。すでに生産も開始しており、独自に開発したフルトレーラの連結システムや木材用クレーンの特長など、佐藤社長独特の口調で説明していた。

場所を新庄駅近くのセレモニーホールに移して行った祝賀会には高橋榮一郎市長をはじめ関係者多数が駆けつけた。冒頭あいさつに立った佐藤社長はおよそ次のように述べた。

「連休の中にも拘わらず大勢の皆様にご出席賜り厚くお礼申し上げます。当社は昭和二十九年一月に新庄市で創業しており、ちょうど半世紀の節目を迎え約半年前に祝賀会を開催したばかりです。新工場への移転は数年前から計画しておりましたが、このほど皆様のご支援によりまして新庄中核工業団地に移転することが出来ました。今後ともお客様が必要とする製品を開発して社業発展に尽くす所存です。更なるご支援をお願いする次第です。本当に有り難う御座いました。」



祝賀会で挨拶する佐藤啓社長



広大な敷地を有する新庄自動車の新工場